

## 第1回 山武市学校のあり方検討委員会 議事録

1 日 時	令和6年6月27日(木) 午後1時30分から午後3時18分
2 場 所	山武市役所 第5会議室
3 出席委員	14名
4 欠席委員	2名
5 議事内容	(1) 山武市立小中学校の現状と今後の推移について (2) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針の一部改定(案)について (3) 質疑・応答 (4) その他(今後のスケジュールについて)
6 事務局説明者	教育総務課長 外

### ・委嘱状交付

※内田教育長から各委員に委嘱状を交付

### ・委員および事務局職員の紹介

※委員、事務局の順に自己紹介を行った。

### ・委員長、副委員長の選出について

※互選により、大藤委員を委員長に、七井委員を副委員長に選出

## 1 開会

※開会にあたり教育長よりあいさつ

教育長：本日は暑い中、また御多用中のところ令和6年度第1回山武市学校のあり方検討委員会に御出席いただき感謝申し上げます。皆様には、日頃から市教育行政に御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて教育委員会では、平成27年に「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針」を策定した。また、翌28年に、この基本方針に基づき、規模適正化・適正配置の基本計画を策定し、市内小中学校の再編成を進めてきた。

平成28年に策定した基本計画は、前期計画と後期計画とに分かれている。前期計画は平成28年度から令和7年度までの10年間、後期計画は令和8年度以降となっており、令和6年度に計画の見直しを行うとされている。

現在、後期計画の見直し作業に取りかかる時期ではあるが、後期計画を見直すためには、それに先だち、基本計画の基になっている基本方針について、一部修正が必要となる。というのは、基本方針は策定から10年近くが経過しており、数値や制度等について現在の形に修正する必要があるからである。

ついては、基本方針を一部修正するにあたり、委員の皆様から様々な視点から御意見を頂戴したいと考えている。どうぞよろしく願います。

事務局：ここからは、山武市学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第1項の規定により、「委員長が会議の議長となる」と定められているため、大藤委員長に議事の進

行をお願いする。併せてご挨拶をお願いする。

※選出された大藤委員長よりあいさつ

委員長：委員長に任命されたので、私の方でやらせていただく。

基本方針も10年ぶりに見直しの時期が来ているということで、このあり方検討委員会においても、色々な意見を出して山武市の子どもたちが、明るく元気に将来に向かって行けるような学校を作っていく、また地域に貢献できればと思っている。学校教育に素人であるので、わからない点はあるが、皆さんと意見交換しながらより良い会にしていくので、遠慮なく皆さんで意見を言い合っていきたいと思う。よろしくをお願いする。簡単ではあるが、就任のあいさつとする。

では、会議を進めさせていただく。

会議の内容に入る前に議事録の公表について、確認する。事務局より説明をお願いする。

事務局：議事録の公表について説明する。

この学校のあり方に関する問題は、市民にとっても関心深いものであり、市として公表していかなくてはならないものだと考えている。公表の方法としては、委員の発言を全て公表する訳ではなく、意思形成の過程にあるもの、また、協議中そのような個所については非公開とし、公表する場合は、発言された委員の名前は伏せさせていただく。

例えば「A委員、B委員」というような形で公表する。いずれにしても、公表する際は、各委員に確認をいただいてから公表する。

なお、確認方法であるが、会議終了後、概ね1週間程度お時間をいただき、事務局で議事録を作成する。作成後は、各委員宅に確認用の議事録を送付し、ご確認をいただき、修正がある場合は連絡をお願いしたいと思っている。説明は以上である。

委員長：ただいま、事務局から議事録の公表について説明があったが、何か意見はあるか。

(意見する委員なし)

委員長：よろしければ、議事を進める。

初めに、「(1)山武市立小中学校の現状と今後の推移について」並びに「(2)山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針の一部改定(案)について」事務局より説明をいただき、その後に「(3)質疑・応答」とする。

それでは、事務局より説明を求める。

## 2 議事

### (1) 山武市立小中学校の現状と今後の推移について

事務局：資料1「山武市立小中学校別児童生徒数・学級数の推移」により説明

### (2) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針の一部改定(案)について

事務局：資料2「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針新旧対照表」により説明

### (3) 質疑・応答

委員長：事務局より説明が終わったので、これから質疑応答に入る。何か意見はあるか。

A委員：資料2の4ページ児童生徒数の推移について、左側のグラフの平成27年度から令和3年度の数値は、推計値ではなく実数値が良いのではないか。

事務局：令和6年度までは実数値が出ているので、実数値に直したいと思う。

B委員：資料2の2ページに載っている本市の教育理念は、前からあるものだと思うが、自分の市の教育理念が何か知らないまま来ていた。例えば地域で実際に子育てをしている母親や父親が、このことを理解していることで、市と同じ思いで子どもたちを見守っていけると思うが、この教育理念は、どこかに掲示されていたり、配布物に書いてあるのか。また、今後もそのような取り組みをしていくのか。

事務局：教育理念については、市のホームページに公表している。また、各学校に伝えてあり、これをもう少し細かくしたものを各学校の目標としている。

B委員：できれば、もう少し目に付く、買い物に行く場所や、子育ての支援施設などに掲示すると良いのではないかと思う。

委員長：学校の先生方は、この教育理念について何かあるか。

C委員：私は、着任するにあたり市の教育理念、教育方針等を十分に理解したうえで学校教育目標等を立てて学校運営に当たっている。市教委との考え等を十分に反映させつつ学校運営に当たっているところである。

D委員：小学校でも、市の教育理念をしっかりと受け止め、小学生の実態に合わせた形で学校教育目標を発信している。

B委員：計画について、事前に今の状況を親世代に、意見を直接聞く機会やアンケートを取ることはあるのか。

事務局：今回は、基本方針の変更である。前期計画を立てたときは、児童生徒や保護者の方からアンケートを取っている。今年度については、基本計画の元となる基本方針の変更となるので、来年度以降、後期計画を策定して行く中で、あり方検討委員会の中で必要に応じて、前回計画を策定した時と同様にアンケートを取ることを検討していきたい。

E委員：教育委員会としては、単学級は、無くしていきたいという方針でよろしいか。例えば、児童数の推移を見ると、大富小学校は令和12年度で1年生が一人になってしまい、単学級というレベルではなくなるが、基本的には単学級を無くして、小学校2クラス以上、中学校3クラス以上を目指してやっていきたいということではよろしいか。

事務局：単学級にはなるが、小規模校によるメリットを生かしながら、本市はICTが進んでいるので、そちらを活用しながらデメリットの解消を図って進めていきたいと考えている。

E委員：スクールカーストという言葉があるので、子どもたちの人間関係がこじれた場合、6年間それを我慢させるというのは、非常に厳しいことなので、クラス替えが出来れば良いと思うが、単学級でもということであれば、資料2に載せているシミュレーションは取った方が良いのではないかと思う。

どうしてもこういう風に統合していくのかというイメージを作ってしまうので、例えば山武地域は、将来、山武北小と睦岡小が統合しても単学級であるし、日向小学校ももうすぐ単学級になるし、そうすると山武地域は1中1小でも良いかと思う。スクールバスは、統合すれば出すので、それくらいやらないとだめではな

いかと思う。

シミュレーションがあると、こういう風になるというイメージ付けがされて、例えば、学区も変わらない。学区も本来であれば、もう一回学校の場所によって変えていった方が良いのではないかと思う。今、どうしても3町1村を引きずっている部分があるので、もう山武市になってから生まれた子たちが選挙権を持つくらいになっているので、そういう部分では、あえて、シミュレーションを付けない方が、ゼロから議論が出来て良いと思うがどうか。

事務局：今回は、主に児童生徒数の推移、それから現状の教育方針等の変更ということで、平成27年度に策定した基本方針の構成を、ほぼそのままの形で、削除せずに案として作成した。今、E委員から組み合わせがあると誤解されやすく、このままの形で統合して計画を作っていくのかと考えてしまうこともあると思うので、基本方針を変更するにあたって学校の組み合わせは、基本方針から削除するというのも今後、皆様から意見をいただき検討する。

B委員：日本は少子化が進んでいる地域が多くなっていると思うが、計画等を作るにあたって、同じような地域等を参考にしたり、自治体同士で連携を取りあって、何かこういう風にしていったら、成功したなどコミュニケーションを取りながらやっていたのか。それとも山武市だけで作っているのか。

事務局：県レベル、関東レベル、全国レベルで様々な研修会をやっている。その中で学校の小規模化に対する対応をどうするかという話し合いは、かなりの場面で行われている。

ここだけではなく、同じような状況の地域が様々あり、例えば意外だが京都あたりは20年30年前から、小規模化が進んでいて、どういう対応したら良いか研究されている。そういうのも広く伝わっている。また現在に合った形もあり、県ごとに制度が違ったりするので、そういうのも併せながら保護者の方々や地域の方々から意見を頂戴しながら一番良い形を作っていきたい。統合ありきか、統合なしか二者択一ではなく、基本方針にも書いたが、様々な制度があるので、選択肢として捨てずにまた、ICTも進んでいるのでいろいろな状況を加味しながら良い形にしていければと思っている。

委員長：他にあるか。E委員からあったが、シミュレーションの資料というのは他の委員の方は、必要と思うか。誤解を招きやすいので、無いほうが良いという意見があったがどうか。

B委員：シミュレーションはあってもよいが、AプランBプランといった様々な選択肢がある方が良いと思う。

A委員：先ほどE委員が発言されたときに出た学区の考え方について、10年前は市町村合併によってそれを無視した統廃合を考えることが出来る時期ではなかった。今の委員の発言からして、学区の考え方も少し柔軟にするというようなことは、行政の立場からするとどうなのか。

事務局：山武市の学区については、旧町村、山武町、成東町、蓮沼村、松尾町のくくりの中で、学区が決まっている。児童生徒数も少なくなってきたので、旧町村を超えた学区の再編成も検討していく必要があると考える。

A委員：そういう柔軟性があると、子どもたちのために、今後の将来の学校のあり方をこのメンバーでいろんな角度から検討したというエビデンスにもなる。10年前の議論になるが、山武市だが、東金市に隣接していて山武市の子たちがみんな東金

の小学校に入ってしまう地域があったように記憶している。

事務局：源小学校である。今は、閉校してしまった源小学校に、山武地域に住む源小学校の近くの子が通い、中学校になると山武中学校に行っていた。

A委員：小規模化した時のデメリットが、意外と簡単には克服できなくて、当時教育委員会の方に小規模校が統廃合するが、現場の先生たちに余力が無いと研修に若手の先生だとか、出せなくなるような教員配置だと、教育の質が下がっていくのではないかとといった議論があったように思う。様々な角度から、検討できると良いのではないかと。

また、書き方については、今の基本方針にデメリットがあつて、改正案ではメリット・デメリットとしているが、でもまたデメリットに戻ってしまう。個人的には、今、課題としてデメリットがあるけど、このメリットをこの学校のあり方検討委員会は追求していきたい。というような書き方にした方が良いのではないかと提案をさせていただく。

事務局：今、A委員からあつたご意見について、こちらの方でも検討していく。

F委員：先ほど、学区の再編の話があつたが、今回のこの学校のあり方検討委員会の中で、学区の再編というところまで話し合つて、一定の結論は出るのか。という疑問が一つと、また、ある程度目安として、合併した都合もあつて旧町村を引きずった学区で、ある程度検討してしまうというのものもあるかと思うが、それはそれで目安として良い。というのも、山武望洋中の統合の時に色々話を聞いていて、賛成・反対で村を2分するくらいの話になる。結局、私が今、統合した学校に子どもが通つていて思うのは、一緒になって良かったと個人的には思っている。それは、教員配置だとか、どうしても少ない学校は、先生が少なくなってしまうので、その辺のデメリットが克服出来ないとは思ふ。

それによって行事が縮小されていったりがある。考え次第ではあるが、どちらが良い悪いというものもなかなか決めかねない部分もあるが、少なくなったところを一緒にしていくという方向性で間違っていないと思う。あと、子どもたちの教育に視点を置くのか、地域としての視点を置くのかという人の見方によって、統合して学校が無くなると地域が廃れるからと言い、反対する人もいるが、あくまでも子どもたちの教育というところに視点を置いた時に、ある程度の人數で教育を受けさせたいというのがある。そこは、スタンスとして子どもたちのためというところで、考えていただいた方が良く個人的に思う。

話が戻るが、学区の再編というところから話合うのかどうなのか、間に合うのか。

事務局：後ほど、スケジュールを説明するが、今年度の学校のあり方検討委員会でご意見をいただく内容については、先ほどお話しした基本方針の一部改定となるため、学区の再編に関しては、また改めてということで、今年度はそこまでは難しいと考えている。

G委員：成東中と成東東中で普通に考えたら成東東中の校舎に統合すると思つていたが、今の成東中学校の校舎を改築するというようなことが資料にあつた。たぶん、成東中学校のあるところの方が、子どもたちとか状況的には良いのかなと私は判断したが、先ほど学区を無くして考えても良いのではないかとのご意見で私もストンと落ちたところがあつた。これからは、子どもたちの環境と安全に通学できるというところを考えて、学校を作っていくというくらいの発想でも良いのでは

ないかと思った。

また、睦岡小学校の学区は、外国の子どもたちがだいぶ増えていて、元々住んでいる睦岡地区の子どもたちと人数が変わらなくなるくらい、年々増えているように感じる。そういう対応も考えなければならないと思う。

B委員：話がずれていたら申し訳ない。先ほど村を2分化するような騒動があったと話があったが、話を聞いていたり、資料を読んでいて、不安があった。保護者の立場からお伝えしておきたいと思う。日向小も統合して新しい学校になっているが、統合する狭間にいた今の5・6年生の保護者の方たちがギスギスしているようで、私は、上の子が4年生なので、新しくなって入学したようなところがある。これからまた統合が増えていって、また村を2分化するような問題がすごく不安であるのが一つ。どんどん縮小されるにあたって、子育ては山武市でしているが、東京で勤務していて、東京で子育てしているお母さんたちと地域で子育てしているお母さんたちで情報格差やいろんな格差があるように感じる。どんどん規模が縮小されていくことによって、さらに差が出ないかという不安がある。また、そういうケアもどんな感じになるかという不安もある。

F委員：村を2分化は言い過ぎた。やはり、賛成・反対はあったので、多少そういうのはあったが、少し言い過ぎた。

E委員：今、村を2分化は言い過ぎたとのことだったが、結構なものがあったのは、確かである。それがあるので、シミュレーションを出すのはどうかと。うちも、地元は山武西小で、無くさないためにはどうするかというような話し合いがされたくらいである。そうではなく、地域は地域としての様々な考え方があるだろうし、また、蓮沼も当時、村から学校が無くなるという風に言われて、確かにそれは、地域住民にとって大変なものだなと思ったが、教育委員会や私達としては、子どもたちの教育環境は、どうなのかということに置いておかないと、あちこちから意見を聞いていると、何も前に進まない。そういう部分では、学校を無くすというの、どこにどういう風にすれば良いかというのをゼロから考えられれば、という部分がある。シミュレーションがあると、ここここが統合するのかというイメージが付けられてしまう。もちろん内々では、パターンとして2つなり3つを統合するとか、たとえば、私の地元は山武地域だが、正直言うと、小中学校一緒の敷地において、こども園も無いので、こども園も一緒にして、幼児教育から中学校卒業まで一緒にやりたいというのは、ある。それはそれとして、やはりシミュレーションを付けてしまうと、これが先行してしまう。そうすると、あの時の統合のイメージが思い出されるので、そこは慎重にやった方が良いのかなと思う。私の意見として願います。

事務局：適正化適正配置の方法として、統合だけが適正配置の方法では無いということをご理解いただきたい。今、E委員がおっしゃったように小学校と中学校を同じ敷地に置くというのも一つの方法である。それにメリット・デメリットももちろんある。

例えば、昔、山武北小学校が分校であったので、1・2・3・4年生は、それぞれの学校でやって、5・6年生だけ統合する方法の本校分校方式もある。ですから小さくなったから必ず統合しなくてはならないのか、それとも何とか分けてやるのかという二者択一ではなく、色々な方法があるのでそれは柔軟に考えていきたいと思っている。

それと、すぐにやらなければならないことと、5年10年先に考えなくてはならないことと、もっと先に考えなくてはならないことがある。今のグラフを見て、10年先よりもっと先に、子どもたちが何人になるのか考えていると、盛んに先ほどから出ている、学区再編はやらざるを得なくなってくると思う。

極端なことを言うと、全市で一つの学校でも収まらないこともないくらいの人数ですので、良いか悪いかは別だが。すぐにやらなくてはならないことと、5、6年先ともっと先を分けて考えなくてはならないと思っている。その辺は、教育委員会で考えていかなくてはならないと思っている。

E委員が先ほどおっしゃっていた後半部分（シミュレーションのページ）について、我々も議論をしたが、計画の大本となる方針のため、あまりいじりたくなかった。形は、残しておこうということで、今日ご提案したが、いずれ基本計画の時点で話し合わなくてはならない。どうしてもということであれば省くが、来年度以降は、多少の議論はさせていただきたいと考えているので、ご承知おきいただきたい。

委員長：他に何かあるか。

H委員：これは、市が何もしないで、移住者とかを誘致しないでというシミュレーションであって、例えば、市に大きな産業が入ったりするとまた変わってくる形になると思う。

そういうところまで踏まえて考えた方が良いのか、それとも今のままで衰退していくという方向を踏まえながら考えるべきなのか。市の計画などを踏まえて、移住者とかの支援を横芝光町だと頑張っているし、今度、屋形の海岸沿いに大きな施設が来るという話を聞いていて、そういうことがあると、移住してきた場合、微増ではあるが生徒数が増えるということが考えられる。この数が倍になるとは思わないが。この数字だけを追いかけて検討して行くべきなのか、市として人口流入を踏まえて考えていくべきなのか、そこの指針を伺いたい。

事務局：現時点では、人口流入による増加は見込んでいない。

委員長：山武市が力を入れて人数を増やそうということをやっているならば、人数計算は合わなくなってくると思うが、それは、市の問題であって、この学校のあり方検討委員会ではどうにも出来ない。現状だけでしか判断できないようなので、ある程度の規模でやっていけばと思う。

他にご質問等があればお願いします。

A委員：今日、先生、保護者の方もおられて、ぜひ聞いておきたいことがある。

資料2の11ページから、新旧メリット・デメリットと書いてある部分がある。これは実際に保護者の方たちがデメリットについて本当にそのように思うのか。それからメリットが本当にそういう風にメリットとして感じるようなことがあるのか。例えば、13ページの学校運営面で、小規模化していくと、10年前にも言われていた、新任若手教員の育成が難しいとか、教職員の有給休暇の取得や校内のトラブル対応が困難であるというのが現状として本当に小規模だと教育現場は、そうなのかということをお尋ねしたい。

あともう一つは、全国で統廃合すると子どもの数が減っているのに部活動の運営が10年前は難しいと言われていた。今、いろいろな地域で様々な工夫をされていて、だいぶ改善してきている。これが山武市の場合、メリットに変える施策が用意されていれば、この部活動のところは小規模化のデメリットとして印象付けら

れることが無いだろうと思う。

日本全国が少子化なのは間違いないので、様々な企業を誘致して増えたとしても、全体としては、このテーマは、数十年に渡って続いていく問題である。例えば今、外国の子どもたちがたくさんいて小学校中学校で比率が上がってくると、これがどう教育現場に影響を与えてくるか、この統廃合をするとか少人数教育の中でそれに向けて多様な対応が取れるのかとか。その辺も踏み込んで、新旧の新しいところで山武市のメリットというのが示すことが出来れば良いと思う。13ページのところは、先生方がおられるのでお伺いしたい。

D委員：まず、デメリットを見ると、若手教員の育成が難しいというところは、確かに教員数が少ないことや、中堅職員が少ない現状があるので、大きい学校だともっと中堅職員の核となる職員がいるので、仕事を通しての育成というのは、やり易いが、現状、管理職が直接若手に指導に当たらなくてはならないという状況は確かにある。それから、休暇の取得については、もちろん学校のやりくりや職場の雰囲気によって、お互い休みたいときに休むという努力はしているが、やはり、大きい小さいの違いはある。

C委員：中学校でも、ある程度の人数がいた方が若手の職員の育成はしやすい。年齢構成が今、非常にバランスが悪い。中堅職員の数が非常に少なく、ベテランと若手が多い。ある程度の人数がいるところだと、中堅の人数も若手もいろいろな年齢層の方に育ててもらえることが出来るが、人数が少ないとそれが限られてしまう。

ただ、現状の教員育成システムに乗っ取って若手を育てていかななくてはならないので、学校としても工夫しているところである。

また、部活動についても教員が少ないと、部活動に制約がかかってくる。本校も、部活動の見直しを図っていかなければならない。これは、本校だけではなく、多くの学校で抱えている共通の悩みではないかと思う。

一方、部活動の地域移行も全国的に話題に上がっているのも、それが進んでいくことで、子どもたちの受け皿が広がってくれば良いと思っている。私の立場上、部活動は、存続しているので今ある中で対応していきたいと考えている。

A委員：生徒数が減ってきて、デメリットしか目につかない。

10年前の議論はそこだった。子どもたちの将来を考えなければならないのに、悪いことしかないような印象で、この委員会が進む。そこをメリットに変えるようなアイデアと一緒に議論していかないと仕方なく統廃合止む無し、という合意形成の場になって終わってしまう。そこは、教育に関わる人間としては、プラス未来思考で、山武市で学んだ子どもたちが、この学校の仕組みの中でこそ自分が伸びたというようなことを考えるためには、部活動も減っていき、何もかも違うが、こんな良い面があるという情報発信も必要かと思う。

先生方から見て、教室の中の子どもたちが減っていくことのメリットはどの辺にあるか。

D委員：学級での子どもの数が全体的にも減っているが、やはり少人数で見ている学級の方は、当然子どもたちに目が行き届き、配慮も行き渡るように思う。

支援の方も学級に様々な支援が入っている。個別の対応をできるような体制づくり、また、複数の学級で力を合わせながら、個別に見られるような体制づくりをしている。また、小さい学級同士の交流も積極的に行うことで、縦割り活動

であるとか、少人数なりの工夫によって、子どもたちの学年差に応じた交流面を力入れていくことで、その良さはあると感じる。

委員長：様々な意見が出たが、次回もあるので、今日のところは、他に意見がなければ、一旦まとめさせてもらいたい。委員の方々よろしいか。

(意見等なし)

委員長：それでは、事務局から本日のまとめをお願いします。

事務局：※委員から出た意見についてのまとめを行い、その他意見があった場合の「意見書」の提出をお願いした。

※本日いただいた意見と後日提出いただいた意見等を反映したものを次回の会議でお示しする旨伝えた。

#### (4) その他 (今後のスケジュールについて)

委員長：それでは、(4) その他事務局から、今後のスケジュールについて説明をお願いします。

事務局：※資料に基づき、今後のスケジュールを説明

委員長：事務局からスケジュールについて説明があった。質問等があればお願いします。

(意見する委員なし)

無いようなので、これで本日の議事をすべて終了する。それでは、進行を事務局にお返しする。

事務局：これで本日の次第は全て終了とする。以上をもって、第1回山武市学校のあり方検討委員会を閉会する。

### 3 閉会 午後3時18分